

房光(ふさひかり)

登録番号：第212号

登録年月日：昭和57年2月3日

登録者：千葉県

(千葉市中央区市場町1-1)

育成者：中井滋郎 平野 暁

森岡節夫

来歴：「瑞穂」と「田中」の

交雑実生

特 性

■栽培特性

樹勢は中位であるが、両親のいずれよりも弱い。枝の分岐角度が広く、若齢期より開張性を示すために、上方への伸長性が弱く、比較的低樹高で横張りの樹姿を形成する。幼木から若木時代の生長は旺盛で、長い副梢を数多く分枝させるので樹冠の拡大は早い。しかし、この栄養生長過多の時期には花房の着生が悪いという欠点がある。

開花期は11月中旬から1月下旬で「田中」と同等である。花房の大きさは「田中」よりやや小型で、側花梗はやや細く、低温に遭遇するほどに下方に湾曲する。耐寒性は開花期と花房の形態から見ても「田中」と同等でびわの中では強い方に属する。

■果実の特性

1果平均重が70gの大果で、短卵形を呈し「田中」に似るが、「田中」に比較してやや縦径が長く、また、果梗部の張りがやや大である。稜は不明瞭で角張ることはない。果皮の地色は橙黄色で成熟するとわずかに桃色を帯びる。果粉が多く、果面の毛じょうが長い。果皮に発生する“そばかす状斑点”、“ひびわれ”などの生理障害が少なく果実の外観は特にきれいだ。赤あざは発生するが、その発生率は「田中」程度に低い。果肉は軟らかく、多汁である。果汁の糖度計示度は11~12、りんご酸換算濃度は0.3~0.4g/100mlで、いずれも「田中」よりやや高く、食味は濃厚である。成熟期近くまで酸が高いので、早期収穫は良くない。成熟期は6月上旬で「田中」より約1週間早い。

■病虫害抵抗性

主要病害のがんしゅ病については「田中」と同程度で弱いと考えられる。しかし、この病気は樹勢との関係が密で、樹勢が弱ると罹病しやすくなるが、この品種の樹勢がそれほど強くないため、立地条件等により特に発生の多い場合もみられる。その他の病害虫に対しては、他の品種と特に異なるところは見られない。

■地域適応性

低温には強い品種に分類できるので、温度的には「田中」と同等の適応範囲がある。土壌条件としても適応範囲が大きいため、この品種の栽培適地は広いものと考えられる。また、この品種が開張性で低樹高栽培しやすいということから、ハウス栽培の適応性も高い。

花房の着生がやや悪いために、日当たりの良い場所に、栽植距離を十分にとって植えつけるようにする。また、連作土壌では特に樹勢が弱まって、がんしゅ病に罹病しやすくなるので、処女地または連作障害防除の処置をした土壌に植えつけるようにする。

分岐角度が広く、しかも、枝の先端にゆくほど横に広がりがやすい性質を持つので、強風や積雪による枝裂けには十分注意する。

(中井 滋郎)